

様式 2

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：経済と社会
部会長名：浦長瀬 隆
作成者名：浦長瀬 隆

概要（2000字）

1. 組織・運営

「経済と社会」を運営する部会の構成員は平成23年4月現在で32名で、その所属部局別の内訳は以下のとおりである。

経済学研究科15名（教授9、准教授5、講師1）

経営学研究科3名（准教授1、講師2）

国際協力研究科6名（教授5、准教授1）

経済経営研究所5名（教授5）

農学研究科2名（教授2）

海事科学研究科1名（准教授1）

「経済と社会」は年間全18コマを担当し、原則として経済7、経営2、国際協力3、経済経営研究所1、農学3、海事2として分担している。部会長、幹事は1年半ごとのローテーションで、2004年10月の申し合わせにより、2年に1回は経済学研究科が担当し、経済—国際協力—経済—農学—経済—海事科学の順に各部局から選出している。部会長になる前の1年間は幹事となり、順次引き継いでいる。部会構成員間の連絡および調整は部会長が中心となり、主にメールによっておこなわれている。

2. カリキュラム

「経済と社会」部会が担当する科目は次の4種類である。コマ数は年度により多少変化があるが、括弧内が今年度のコマ数である。

経済入門（3）

現代の経済（9）

経済社会の発展（3）

企業と経営（3）

どの科目も経済学・経営学を専攻しない学生を対象に、専門的予備知識を必要としない科目として提供されている。「経済入門」は主に経済学の基礎を中心に、「現代の経済」は国内・世界経済の現状の理解を中心に、「経済社会の発展」は経済社会の歴史を中心に、「企業と経営」は経済社会における企業の役割を中心に、それぞれの内容が構成されている。個々の授業では、それぞれの科目の学習に必要な一般的知識・理解・諸概念の理解等の修得が目指されるとともに各授業担当者の専門分野にもとづいた個別トピック、具体的な経済社会問題についての解説など、初学者にとって興味を持てるような内容が工夫されている。

3. 活動の状況、課題と展望

担当教員の多くは、単に一方的な授業となってしまうように様々な工夫を凝らしている。大学入試時の受験科目によって、受講生間の予備知識のばらつきが大きいので、授業中に、日本史、世界史、数学などの予備知識の有無を確認しながら授業をおこなっている。必要に応じて予備知識を補う場合もある。また、複数の担当教員は新聞記事など現実の経済現象を示す資料を用いて、受講生の現実の経済への興味を引き出している。その一方で、受講生の予習・復習など自発的な学習の時間が短いという問題があり、今後、授業時間外の学習を促す努力が必要である

様式 2 (続き)

項目・観点ごとの記述

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況)

はい

4科目を開講し、経済に関する基礎、歴史、現実の分析などがバランスよく配置されている。

根拠資料

シラバス、規則集

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

シラバス、授業中に配布したプリント

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

シラバス、レポート、試験

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況)

はい

板書の他に、プロジェクターを用いた講義などをおこなっている。ただ、当部会は100名に近いそれ以上の受講生の授業が多く、個別対応や討論型の授業には適さない。この問題の対処として、基礎知識を補うための資料配布、授業中・授業後の質問受付、レポート課題による主体的な学習の促進などの工夫がなされている。

根拠資料

シラバス、パワーポイント、スライド、独自に製作したビデオ、配布資料

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

いいえ

組織的な配慮はなされていない。資料配布、質問受付、レポートなどの対応がなされている。

根拠資料

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

はい

根拠資料

シラバス、答案、レポート、出席簿

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

はい

授業評価の結果から判断しておおむね達成されていると思われる。

根拠資料

授業評価

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

はい

授業後に質問時間を確保している。メールによる質問も受け付けている。

根拠資料

シラバス